

平成16年度 福岡空港調査連絡調整会議幹事会（第1回）
（議事概要）

1 日 時 平成16年6月22日（火）14：00～15：10

2 場 所 福岡国際会議場 4階 409会議室
福岡市博多区石城町2-1

3 出席者

(1) 幹事

国土交通省九州地方整備局港湾空港部長	東 俊夫
国土交通省大阪航空局飛行場部長	松本 清次
福岡県企画振興部理事	田村明比古
福岡市総務企画局理事	中島 紹男

(2) 本省航空局からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課空港計画企画官 八鍬 隆

4 議事

(1) 開会

(2) 議事

議題1 「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」最終とりまとめについて

パブリック・コメントでいただいたご意見と当会議の考え方（案）について

「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」（案）

田村理事より資料の説明がなされた。幹事より質疑がなされ、原案のとおり成案とする旨了承された。

議題2 今後のスケジュールについて

事務局よりP Iに係る実施計画の策定及び第三者機関の設置などのP I実施に向けた準備のスケジュールについて説明がなされた後、委員より質疑がなされ、提案に沿って進めることが了承された。

議題3 福岡空港調査連絡調整会議開催要領の改正について

事務局より、本会議の役割に関して、P Iの実施主体になるという改正案の説明がなされ、原案のとおり了承された。

5 主な発言内容

【質疑】

議題1 「福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」最終とりまとめについて

幹事

最初に確認したいが、別添 2 の、ご意見とそれに対する考え方について、この幹事会で合意が得られれば、これがホームページに載るという理解でよいか。

幹事

ホームページにも載せさせていただく、他の手段も考えたいと思う。

幹事

本来、P I の進め方についてのパブリック・コメントをいただくというところが、皆さんの議論がついそうでない福岡空港の総合的な調査についての議論になってしまったというところは、我々としてどこか反省すべきところがあったのか。または、この議論は最終的にその辺の議論になるので、もうそれはしょうがないじゃないかと評価すべきか、どのようなものなのだろうか。

幹事

これは致し方ないというか、却ってありがたいと言いますか、そういうことじゃないかと思う。

まず P I のプロセス、手続きみたいな所で今回のパブリック・コメントをかけているわけだが、それにしてもかなりたくさんのご意見をいただいた方だと思っている。P I というのは 1 つの手段であり、手段という意味はこれをやりながら何をやろうとしているかということ、やはり福岡空港をどうするのかということが我々の最後の目標なので、その問題そのものに市民の方々が関心を持っていただいていると。そのこと自体、私は非常にありがたいし、重要なことではないかと思う。

幹事

今回の P I ということであれば、もう少し何かをすれば焦点が絞れたのかなという気がするが。

幹事

正直に申しあげれば、中間で 1 回、パブリック・コメントをやっているが、中間とりまとめの時は数も少なかったし、ご意見は P I のやり方そのものに対するご意見というのはいささか少なく、新空港反対とか近隣空港使えとか、そういうご意見だったので、そういう意味で今回はかなりバランスを取りながらいろいろいただいたのではないかと思う。

幹事

「いただいたご意見等の概要」から判断すると P I 計画に関する意見と最後の総合的な調査の内容に関する意見と両方書かれた方が多いのかなという気がしており、それはある意味自然なことだと思う。

幹事

第三者機関をいづろ立ち上げて、いつ頃から稼動していくのだろうか。

幹事

基本的にはスケジュールは後ほど説明するが、大きな流れだけをいうと、第 1 ステップを実施するために第 1 ステップの実施計画というものはできれば年内かけて作りたいという大きな考え方があって、ただ、実施計画そのものを第三者機関にチェックしてもらうということが必要なもので、少しそれより前に立ち上げておかないといけないのではないかとこの考え方はあると申しあげておく。

議題 2 今後のスケジュールについて

幹事

実施計画の第 1 ステップの策定が 7 月から早速はじまり、11 月ごろには原案作成となっている。なかなかタイトなスケジュールだなと思うが一方で、ここにいる我々関係者、P I そのものの実施経験者というのは極めて数少ないと思う。

具体的な方法論についてどんな方法が効率的なのか、事務局にとってはご苦労になるかもしれないですけれども、数少ないであろう国内の事例を十分集めていただいて、今回、福岡空港のケースに照らして効率的、効果的な手法を整理していただくことが肝要。

短い時間の中ではありますが、勝手なお願いながら事務局のご苦労をお願いしたい。

幹事

それに関連して言うと、たいていこの第 1 ステップの原案作成までが一連の作業の中で一番苦しい時期なのかなと思う。

各ステップによって目的が違うし、P I の目的も成果物も違って来るけれども、ここで汗を流しておく、あとは流れるようになるのかなと思うので、これは事務局だけの話ではなく、一緒に汗を流したいと思う。

事務局

ありがとうございます。第 1 ステップの実施計画は、第 2 ステップ以降のベースになるような実施計画になると思う。先ほど意見があった、先進事例なども十分勉強するとともに、専門家の方々のご意見も十分に拝借しながら、慣れない作業になるかと思うががんばっていきたい。

幹事

P I の第 1 ステップの実施計画の原案作成が 11 月となっているが、この原案というのは P I にかける内容というのではなくて、どういうふうにするかという実施計画を決めるということか。

幹事

かける内容は今年度中にやって、それを来年度にかける。かけ方の問題と理解している。

幹事

ここに書いてないこととして、実施計画を作った後に第 1 ステップの P I のスケジュールというのがあるはず。少なくとも 16 年度の調査を受けてかけるものが決まってくるということだと思う。

事務局

どこまで具体的にかけるかはまだはっきりしないが、おおむねの実施期間は、項目として入れなくてはいけないのかなと。といいますのは、P I を受ける方の心の準備というか、そういったスケジュールもある程度必要だと思うので、いつごろ始まるのかなというのは関心事ではないかと思う。どこまで記載できるかはわからないが、考える必要はあると思う。

議題 3 福岡空港調査連絡調整会議開催要領の改正について

幹事

要は、方向性案の検討主体としての事務と、P I 実施主体としての事務の両方をこの会議で行っていくということだ。